

◆佳作◆

ドイツ連邦共和国における市民活動の現代的特質とその変容
—『自発的な市民活動に関する調査報告書 2009 年』を事例として—

人文科学研究科

山本裕也

本稿の目的は、ドイツ連邦共和国における市民活動の現代的特質と変容を明らかにすることである。その際、ドイツ連邦家族・高齢者・婦人・青年省 (Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend.) によって 5 年ごとに公刊されている『自発的な市民活動に関する調査報告書 2009 年』 (Hauptbericht des Freiwilligensurvey2009) を資料として使用する。

本稿の考察対象となる市民活動とは市民結社を通じて行われる市民の自発的な活動を指し、具体的にはボランティアや市民運動、署名活動などの自律的な市民による非国家・非営利な活動に加え、人々の日常生活に根付く余暇的な活動 (例えばスポーツや趣味などの娯楽的な活動) をも含意している。

結論としては、第 1 章では、1999 年以降の市民活動の実態を確認した上で、第 2 章では現代社会に共通するいくつかの現象から市民活動の減退傾向が明らかとなった。

さらに第 3 章では、市民活動の現代的特質として「個人主義化」及び関係性の弱体化を指摘した。本稿で示されたいくつかの事実は、こうした活動に対するイデオロギー的な思考に基づく硬直した解釈や、市民活動に関する悲観的な観測テーゼに対する再考を迫ると同時に、市民活動が迎えている新たな局面を照らし出しているといえよう。